

野山北・六道山公園

11月30日（火） 晴れ

- ★ 花小金井駅北口から青梅車庫行の都営バスに乗車。このバスは都内を走る路線バスでは最も長い距離を走り、停留所の数は83か所である。10時9分に発車したバスは、青梅街道をひた走り、1時間4分後の11時13分に49番目の停留所・岸に到着した。
- ★ 青梅街道から北へ520m行くと里山民家がある。ここは雑木林が広がる緩やかな丘陵で、いくつもの谷戸が切れ込み、水が湧きだし、人々は地の利を生かして、古くから稲作を営んできた。近代になって近くに工場が出来ると、多くの人々が安定した収入と定期的にとれる休日を求めて工場へ行ってしまい、田圃は荒れ放題となり、ゴミの山となってしまった。この惨状を見かねて、20年前に都が公園として整備したり、昔の民家を復元するとともに、多くのボランティアが田圃を整備したり、里山の自然や暮らしを体験する「里山学校」などを開催してきた。里山民家も20年を経た今、囲炉裏の煙に燻されて古民家の風格を備えてきた。広々とした庭には秋の草花が咲き乱れ、野鳥の声も聞かれ、長閑な秋の里山を楽しむことができた。



里山民家遠景



里山民家



岸たんぼ

- ★ 里山民家の裏には「岸たんぼ」がある。今は刈り取りが終わった後に稲のひこばえが元気に育っていた。岸たんぼの横から雑木林の中に分け入り、落葉が降り積もった坂道を20分ほど登ると尾引山尾根に出た。あとはほぼ平坦な広い尾根道である。落葉を踏むカサコソという音と野鳥の声以外の音は聞こえない。柔らかな木漏れ日を浴びながらの気持ちのよい時間であった。



落葉が厚く降り積もった道

- ★ 尾根道が終わると雑木林を抜けて瑞穂町文化の森六道山公園である。緩やかな丘の上の芝生の公園で、ベンチやテーブルがあって食事をしたり、休憩するには打ってつけである。野外ステージや展望台がある。展望台からは関東一円が展望でき、西には奥多摩・丹沢の山並みの向こうに一段と大きな富士山が見える。南には立川・八王子の町、東には渋谷・新宿方面のビル群やスカイツリーなども見える。天気は快晴であるが、薄い雲がかかっている富士山はうっすらと霞んで見える程度で、写真で見るとは無理である。ここで2つのテーブルに分かれて昼食を取った。



六道山公園の展望台

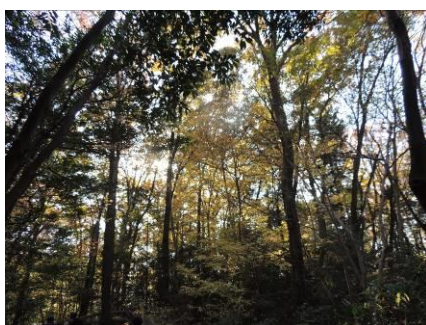
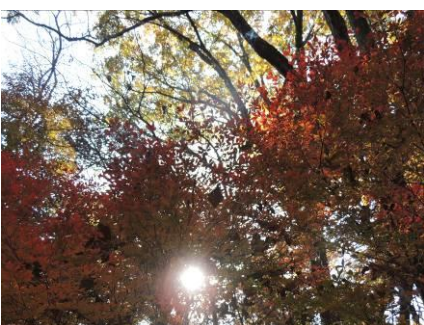


展望台から立川・八王子方面を見る



六道山公園で昼食

★ 六道山公園から六地蔵まではほぼ平坦な尾根道である。道幅は1m以上あり、よく踏まれた歩きやすい道である。左手の柵の向こうは狭山湖と多摩湖を抱く水源林で、右手は開けた谷戸と雑木林が交互に現れる。木々は陽を受けて赤や黄色に輝いている。私たちのようにハイキングに来ている人もいるが、マウンテンバイクで走り抜ける若者も多い。1時間足らずで六地蔵に着いた。



六道山公園から六地蔵へ向かう尾根道

★ 六地蔵は三差路の真ん中に立っている。南側は明るい草地で、尾根より少し下った所に公園の管理センターがある。白いススキの穂が柔らかな秋の日差しを受けて輝いている。管理センターからは緩やかな下りの舗装道路である。赤坂駐車を過ぎると武蔵村山市の総合運動場、体育館などがあり、民家も多くなってきた。どの家もよく手入れされた広い庭を持っていて、都会にはない豊かさを感じさせる。西日を受けたドウダンツツジの赤が眩しい。



六地蔵



ススキと紅葉の雑木林と青空



秋の里山を堪能する

★ 午後 2 時 25 分に三ツ木薬師バス停に到着。2 時 50 分発のバスに乗車し、午後 4 時過ぎに花小金井駅に戻ってきた。

参加者 金子正男、小島恕雄夫妻、志賀 勉、辻 直邦、
牧野昭夫、水野 聡夫妻 以上 8 名

写真と文 小島恕雄



里山民家の縁側にて

今回は3人の俳人から素敵な俳句を頂きました。

古民家は 囲炉裏の煙 屋根に染み

四人ずつ 二卓で弁当 紅葉舞ふ 金子 正男

木漏れ日の 吾が影追ひて 落葉踏む

展望台 富士の影見ゆ 冬日和

谷戸囲む 土手のすすきの 冬木道 志賀 勉

冬麗や 里の住宅 いろり燃ゆ

里山の 丘に昼餉の 小春かな 辻 邦彩